

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	聖隷放課後クラブはなえみ磐田
------	----------------

公表日 令和8年3月26日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	8	おもちゃを数種類（1〜3つ）出すことで落ち着いて過ごすことが出来ている。 活動によってグループを少人数にして療育するなど人数の工夫をしている。	・長期休暇中は利用時間や利用人数が増えることから、活動内容や個別支援の実施において空間の確保が十分でない。 ・用途に応じた部屋の使い分けや、個別対応が可能なスペースの確保について課題あり。 ・子どもの成長に伴い、机や椅子のサイズが身体に合わない場面がある。 ⇒今年度は狭小化対策委員会を設置し、利用人数や活動内容に応じた空間の使い方の見直しを進めている。長期休暇中の部屋の活用方法についても再検討を行い、活動の分散や用途別の環境設定などを工夫する。 備品についても、児童の成長や活動内容に合わせて、椅子から座布団への切り替えなど、より適した種類への見直しを段階的に進めていく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	7		人数は規定より多いが、実際はクラスにより変動があっても良いのではと考える。 宿題と自由遊びの児童、不安定な児童がいる中、欠員があると苦しく感じる。 曜日によって職員の数不足を感じたり、多いと感じたりすることもある。 現状、児童対応の課題を考えるとフリーの職員が数名いるだけでも対応しやすくなるのでは。 子どもの特性を考慮すると、十分に見守りが行えないと感じることが多々ある。 ⇒子ども一人ひとりに丁寧な支援が行き届くよう、利用状況に応じた職員配置や業務分担をする。また、支援の優先順位を整理し、活動内容やグループ編成を工夫することで、個別支援の質の向上に取り組む。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	多目的トイレがある為、肢体の児童もトイレを利用しやすい。 廊下が真っすくなため事務所前までは死角が少ない。	かるみあととはなえみで同じ空間を使用しており、その都度部屋を作り直す必要があり負担が大きい。 ⇒同一空間を共有する現状は当面継続する見込みであるため、物品の移動や収納の工夫を通じて、環境整備にかかる職員の負担軽減を図る。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	2	掃除の徹底、落ちていたゴミはすぐに拾い子どもの誤飲にならないように気を付けている。	部屋の大きさ、サイズ、年齢や発達に合った教材や遊びの提供が必ずしも出ていない。 ⇒空間の使い方や教材の配置を見直し、より効果的な学びや体験ができる環境づくりを進める。また、子どもは日々成長するため、その発達に応じた教材や教具の内容についても、定期的に見直しを行う。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	めばえの部屋は児童の状態優先となっているので良い。 部屋と人員の課題はあるが、パーティションなどの工夫で行えていると感じる。	個別対応やクールダウンのための部屋は確保しているものの、面談や会議等で使用することもあり、常時利用できる専用空間としての確保が難しい日がある。 ⇒個別支援を優先できる空間の確保を前提とし、部屋の使用調整や時間帯の整理を行うなど、より安定して活用できる環境づくりを検討する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1	目標、振り返りがあるので、支援や仕事のやりやすさを感じている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	評価表だけでなく、各行事ごとアンケートを配信して、意見を聞いているため反映している。 ガイドラインアンケートや行事ごとのアンケートを実施している。 行事ごとにアンケートを取り、次回の行事活動に活かす故尾質出来ている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	会議や申し送り意見で伝え、グループでどうするか考えている。 申し送りや会議等で職員間で共有する時間が設けられている。	意見を伝える機会は設けられているが、業務改善には至っていないと感じる。 ⇒今後は意見の整理・優先順位付けを行い、改善内容と経過を職員へフィードバックする。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	環境を見てもらい、改善に繋げる事が出来ている。	事業所同士を比べて良い悪いではなく、保育環境そのものをチェックして適切か改善点などを評価したらどうか。 ⇒振り返りや会議等の機会を活用し、職員間で日々の取り組みや環境設定について共有・検討を行い、より良い療育環境の構築に努める。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	施設内や全体会で研修を実施している。 各種研修会の実施がなされている。 研修や勉強会の機会が多く設定されている。 様々な研修を受ける事が出来ている。	自分の時間を使って、学びたい事を学んでいる。法人としての研修はない。 ⇒各職員がそれぞれの関心や課題意識に応じて学べる機会を、可能な範囲で確保していきたい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	5領域について公表している。 活動に必ずねらいを入れて作成できている。	新人でもベテランでも同じ視点を持てるように、根拠となるものがあると良い。 ⇒支援プログラムは、職員が共同して作成することで保護者への丁寧な説明資料として公表する。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	1	1人1人に希望を聞いている。 子どものやりたい事や保護者のニーズをもとに活動内容や支援計画を作成するよう心がけている。	

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	カンファレンスを通して共有することが出来ている。 月に2回カンファレンスを実施。 支援計画を作成する際は色々な職員からも意見を聞きながら作られている。	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		カンファレンスを通して共有することが出来ている。 カンファレンスだけでなく、日案も作成をする事で、いつでも確認しながら療育が出来ている。 申し送り、カンファレンス等で共有されている。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2	アセスメントツールを使用している。 バイナリ適応行動尺度を使用。 アセスメントを行いながら、成長した場面、課題に注目することが出来ている。	分かりません。 使いこなせているのか疑問。 ⇒職員同士で学び合い確認し合う機会を設けることで、理解を深め、共通認識のもとで活用できるようにしていきたい。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	普段の活動だけでなく、行事を通して家族支援や地域連携を行っている。 支援計画に明記されている。 行事を通して、利用児童だけでなく、利用児童の兄弟も一緒に支援を行ったり、長期休みの活動で工場見学や公共施設に行く機会が設定されている。 毎年見直し改善している。	本人、家族は分からない。 移行、地域、連携がわかりづらい。 ⇒移行支援や地域連携の具体的な内容や目的について、職員間で改めて共有する機会を設け、共通認識のもとで取り組めるようにする。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		クラス会議にて立案している。(2) 活動の計画を立て、職員間で共有しあうことが出来ている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	クラス会議で複数職員の意見を聞き反映している。 4月から3月に向け、子どもの成長過程にも合わせながら活動内容を変えている。 様々なツールを活用し、ワクワクする活動を心がけていると感じる。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	1		個別活動を入れたいところもあるが、人員配置的に毎回個別が出来ない。 ⇒毎回の個別活動は難しい状況ではあるが、個別の支援が必要な場面では時間や場所を確保して対応している。また、集団活動の中でも個別の視点を取り入れ、一人ひとりに合わせた支援を提供できるようにする。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		毎日朝申し送りを行っている。(2) 内容の共有だけでなく、職員配置も設定する事で落ち着いた環境設定が出来ている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	事故発生時は、その日振り返るようにしている。 次の日の朝の申し送りで実施。(2) 職員間で意見を共有しあう事で、次の活動改善に活かすことが出来ている。 必要に応じて。	申し送り等で共有が行われているが、一部の共有になってしまう状況も見られる。 ⇒振り返りや会議等の機会を活用し、職員間で日々の取り組みや環境設定について共有・検討を行う。全職員が同じ情報を把握できるよう、記録の方法や共有の流れを見直す。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	毎日ケアカルテにて入力している。 日々ケアカルテに記入するとともに活動の振り返りはクラス会議で行う。 状況により支援が出来なかった内容については、次回行えるよう場面設定を心がけている。 その日のうちに振り返りを行う事は少ない。翌日実施。 行事の際は、その会のうちに振り返りを行えている。	計画に対しての記録は取っているが、特記を入力していない。(申し送り共有のみ) ⇒児童の様子や支援の経過等、必要な記録が適切に残されるよう、日々の業務の中で記録の充実を努める。カンファレンスの際に確認できるようにする。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		5月に1回行っている。 自分の視点だけでなく、他の職員の視点でも意見を聞き、支援計画の見直しを行っている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	1	たいよう③の地域交流の機会は外出等を積極的にやっている。 それぞれの児童のニーズに応じて支援計画を作る事が出来ている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	自分の意見等伝える事が難しい場合には、選択肢を出して子どもの声を聞くように心がけている。 遊びの中から、選択と決定をしやすいよう設定している。 1人1人や状況に合わせて声掛けをし、とても大切な事だと感じました。	自己選択を意識しているが、環境や支援において工夫までの改善は行えていない。 ⇒自己選択とは何か、どの場面で保障できるのかを職員間で整理する機会を設ける。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	児発管が参加。(2) サービス担当者会議の前に、職員間で子どもの様子を共有する事が出来ている。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2	医ケア児童については、病院と連携あり。 医ケアの児童はとくに医療と連携している。 サービス担当者会議を今年度多く開催、参加をし学校と支援の共有をしている。	学校訪問で直接様子を見られる機会があると良い。 医療機関との連携は、あまり多くないと感じる。(発達検査の結果の共有等) ⇒次年度は見学機会を検討中。医療機関との連携は限定的な部分があり、今後の連携方法を検討する
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1	保護者を通じて行う事が多いが、学校によっては情報共有が出来ている。 下校時間や学校行事を共有してもらおう事で行事などの調整にも気を付けている。 送迎時の申し送りを大切にしている。 都度、共有が出来ている。 登校が難しい状況にある児童の所属する学校と連携している。	保護者や相談支援事業所を通して行っているため、直接の連絡は少ない。 ⇒学校との情報共有は、主に保護者や相談支援事業所を通じて行っている。 必要に応じて保護者への助言も行い、年間計画や下校時間など重要な情報については、児童発達支援管理責任者が中心となって事業所内で共有・調整をしている。
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2	かみあとは行っている。 かみあから情報提供を頂き共有する機会がある。 利用前の情報共有の徹底、同一事業所でないところには訪問し様子を見ている。 かみあ交流会を通して情報交換を行っている。	

こどもや保護者との連携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	6	特別支援学校卒業生は行っている。 それ、たいよう共に学校卒業での移行がないため未実施と思う。	地域の学校へ通学している児童は卒業まで見られない。 分からない。(3) どのように情報提供が行われているかわからない。 ⇒情報提供の内容に加え、移行支援の仕組みや方法についても職員間で適宜共有し、同じ認識で支援が行えるようにする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	3	放デイ施設内だけでなく、相談とも情報共有が出来る。 勉強会を実施している。	自分自身、地域の支援センターとの関わりはない。 事業所として何か行っていることがあるか分からない。 ⇒地域の児童発達支援センターとの連携は行っているが、職員間で十分に共有されていない。今後は連携内容を可視化し、共通理解を図る。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	4	児童館に長期休暇に行く。 びゅう祭り等の行事を通して、地域の方たちとの交流が出来ている。(2)	・地域のこどもとの「交流」という点では、行事参加や施設利用にとどまり、相互の関わりが十分とは言えない。 ・取り組み内容が職員間で十分に共有されていないと感じる。 ⇒地域の子どもたちと自然に関われる機会づくりを、行事参加に加えて検討する。その際は、保護者のニーズも確認しながら進める。あわせて、職員間での情報共有も行う。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3	参加している。 所長が参加。	協議会等に参加で来たら、様々な意見などを知る機会になると思う。 次回の協議会へ1名参加することは知っているが、これまで毎回出席しているのか、どのようなことが話し合われているのか分からない。 ⇒協議会の議事録を閲覧したり、職場会議で共有したりすることで、職員間での情報共有を回す。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		何かあった時は、降所時に詳しく聞いている。 保護者対応の際に、頑張った事だけでなく、課題、それについての支援と結果も伝えるように心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3	講演会あり。 防災教育、性教育(今後実施予定)を実施。 座談会や講演会等が毎年行われている。(2)	講演会や座談会、防災教育等の実施は行っているものの、ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムとしての位置づけや整理が十分ではない状況がある。また、職員間で「家族支援」という視点を共有しきれていない点も課題。 ⇒既存の講演会や研修機会について、家族支援の視点から目的や位置づけを整理し、職員間で共有する。今後は、ニーズを踏まえながらペアレント・トレーニングの導入や、より具体的な家族支援の形について検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		4月の事業所説明会または契約時に説明。 事業所説明会で丁寧な説明が出来ている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		保護者だけでなく子どものニーズも聞くようにしている。 子ども会議、保護者会など実施。 子どもとの日常の中で関わりや、保護者対応で声を聞くことを心がけている。 子ども会議を開催した。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		事業所説明会(4月、10月)を実施。 面接後、支援計画をお渡しする際に分かりやすく説明するよう心がけている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		降所時などに行っている。 子育ての悩みがあった際には、助言をしながらも職員間で共有を行い、後日の様子も聞いている。 必要に応じて面接以外での話す時間を作っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	2	事業所主催の保護者会は実施。 姉弟同士の交流はなく、家族も含めて行事を実施。 学年で座談会の日程を分け、共通の話が出来るようにしたり、姉弟で参加できるスポーツ大会を開催していた。	保護者同士・きょうだい同士の交流については単発的な実施にとどまっている。 ⇒今後は継続的な交流機会の設定やニーズ把握を行い、交流の在り方を検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		対応マニュアルがある。 苦情があった場合には、すぐに上司に報告後、再度連絡をし、会議にて情報を共有している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		お便り、写真販売、ホームページの更新を行っている。 (2) ホームページを通して子どもの様子を発信したり、コドモンにてお知らせ配信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		マニュアルがある。 子どもの情報が書かれているものはすぐに誰でも目に入らないよう片づけるように心がけている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		指差し等で行っている。 子どもが「お母さんには言わないで」との声が合った際には、一度職員間で共有し、伝え方(内容により)を考えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	2	びゅう祭り、防災フェスを行っている。 おやつや防災フェス、移動動物園へお誘いをしている。 地域に開けた行事に必ず情報をお伝えし、お招きしている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	マニュアル整備されている。 発生訓練も実施。 年に必ず1回は訓練を行う事で、パニックになりすぎずに対応が出来ている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	計画に基づき実施。 毎月訓練を行う事で訓練中でもスムーズに行動が出来ている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		クラス児童については共有している。 利用時と年度始めのフェイスシート等記入時に情報を共有。 職員間で服薬についてやてんかん対応の共有をしたり、マニュアルが置かれている。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		医師の指示書を提出してもらい栄養士との面談もしている。 アレルギー面談を行い記録に残している。 食物アレルギーはまだ出ていないので分からないが、対応出来るようマニュアルの用意がある。 指示書のもと、栄養士を含めた面談をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	安全管理について当番制で点検をしたり情報共有をして不備の内容にしている。 部屋の構造により危ない所を避難訓練時に確認できている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2	紙面では行っている。 コドモンの資料室にいつでも見られる形で掲載している。 事業所説明会だけでなく、台風などの際の当日の動きの連絡を行えている。	引き渡し訓練は行っていない。 安全確保の取り組みを行っていると思うが、家族への周知が出来ているか分からない。 ⇒安全計画については、年に2回程度お知らせする機会は設定しているがその頻度や周知方法については再度検討して見直す。今後も様々な場面を想定した訓練の検討を進める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	事故報告の回覧、会議での共有の実施。 再発防止のため、職員間で共有、事故伝報を作成している。 ヒヤリ、事故伝を当該月に共有、半年後に振り返りも共有している。	ヒヤリハットの活用は出来ていない。 ⇒現在、ヒヤリハット事例は職場会議で定期的に振り返り、再発防止に活かしている。職員が「小さなことかもしれない」と感じた場面も気軽に記録・共有できる仕組みを整え、日常的に情報が集まる体制をつくることで、より安全な支援につなげる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		研修を行っている。 年2回事例を用いた検討会を実施。 虐待についての研修が行われているため、子どもの対応に気を付ける事が出来ている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1	毎月の会議で確認。必要性があった場合適切に行っている。(現在なし)チャイルドシート使用。 事前に保護者へやむを得ない場合の身体拘束について説明が出来ている。	